

《2014年 年頭所感》

より魅力的なJIAを目指して



公益社団法人日本建築家協会会長 芦原太郎

社会にとっても魅力的なJIA・会員にとっても魅力的なJIA

昨年は経済も少し上向きになり、2020年に東京オリンピック開催が決まるなど明るい兆しが見えてきました。

高度成長の時代のようにバラ色の未来を信じることは難しいとしても、私達建築家は将来ビジョンのもとに専門家として安心・安全で持続可能な環境づくりにむけて一つ一つ地道な努力を積み上げていくことが大切です。

2020年の東京オリンピックを契機にして、成熟社会の建築・まちづくりのあり方を示しながら建築・まちづくりを推進していきます。

建築の公共性〈社会にとっても魅力的なJIA〉

建築は地域の環境を構成する大切な要素であり、社会性・公共性を持った環境資産といえます。

建築関連5団体の建築・まちづくり宣言には唱われている以下の3つの環境、人々が生き生きと暮らせる安全・安心な生活環境、生産・経済活動を支える持続可能な社会環境、地域固有性を継承する豊かな文化環境のすべてに建築は密接に関わって、その環境を価値あるものとすることに貢献しています。

この公共的価値の実現が公益社団法人としてのJIAの目指すところであり、会員総力を挙げて具体的に公益活動を実践していくことで、社会にとっても魅力的なJIAとなることを目指しています。

信頼される建築家〈会員にとっても魅力的なJIA〉

建築家は単なる技術者ではなく、プロフェッションの本質は建築づくりを通して公共的価値を実現させていくことです。

社会から建築家に対する信頼を獲得していくことが、会員にとってのJIAの魅力の第一になってきます。

建築への志を共にする仲間との活動や交流を通して、プロフェッションの本質を学び継承していくとともに、新会員制度による学生会員やジュニア会員など若い会員を建築家に育てながら、会員にとっても魅力的なJIAになることを目指しています。